

近年における鉄道路線の開業及び廃止の状況

大 島 登 志 彦 ・ 秋 葉 健

A Report on the Opening and Abolishment of Railway Routes in Current Japan

Oshima Toshihiko · Akiba Takeshi

Summary

This paper aims to create database in a timeline style using the collected data on circumstances of the recent opening and abolishment of railway routes in current Japan and analyze the tendency over the years. In this study we focused on thirty six years from the fiscal year of 1975 to the fiscal year of 2010. We describe the background of this study in Chapter one. We describe the process of data collection and discussion of the data in Chapter two. We tried digitalization of the collected and well-examined data and a review of the contents in Chapter three. We discussed the circumstances of the opening and abolishment of railway routes by separating the whole periods into five sub-periods in Chapter four.

1.はじめに

今日において、鉄道路線の存続問題が全国各地で活発に議論されている。これまでローカル線を補助金という形で支援してきた、地方自治体の財政が年々厳しくなる中で、北海道ちほく高原鉄道やくりはら田園鉄道など、赤字を理由に鉄道路線の維持を断念した事例も生じてきている。一方で、赤字であっても若桜鉄道のように、自治体が財政支援を行うことによって、維持を図る事例もある。また、富山ライトレールや和歌山電鐵など、既存路線の事業運営方法を変更し、施設改修も行うことによって、路線の活性化に成功した事例も生じてきている^{1・2}。

これまで、筆者のうち大島は、ミクロ的な観点からバス事業者を中心に、公共交通を担う民間企業の路線開廃の歴史にスポットをあて、主に資料の収集とフィールド調査を中心とした研究を行ってきた。筆者のうち秋葉は、大島がこれまで収集してきた資料を活用し、マクロ的な観点から全国

1 鉄道まちづくり会議編『プロブレムQ&A どうする?鉄道の未来』、緑風出版、2009年

2 小嶋光信・森彰英『地方交通を救え!』、交通新聞社、2014年

を縦断した鉄道路線維持条件の研究を行っている。筆者らは公共交通維持を論議するために、輸送量や財務諸表、沿線人口等のその路線に固有な事項を論議することはもちろんのこと、全国的な傾向を分析することも必要不可欠な事項であると考え、これまでに鉄道旅客輸送統計資料の収集と考察を行い、それを電子化することによって、今後の公共交通維持に関する研究の基礎となるデジタルデータベースを作成してきた³。

本稿では、近年における鉄道路線の開業及び廃止の状況ならびに経営形態の変更について、その基礎となる資料を収集し、デジタルデータベース化を行い、その上で本稿付表1及び付表2に掲載する年表を作成し、年次を追った傾向を分析していく。各路線個別の開業及び廃止の状況は、『鉄道ファン』各号や『鉄道ジャーナル』各号といった鉄道趣味専門誌掲載の既存の文献に掲載されているが、全国を縦断しその傾向の分析を横軸から行った文献は見受けられない。そのため、筆者らの観点から年次を追った顕著な傾向と変化をまとめていきたい。

また、許認可制度上の鉄道の開業・廃止には2つの形態がある。一つは新規開業や廃止といった路線自体の登場・消滅によるものである。もう一つは、路線は存続するものの従来鉄道営業を行ってきた事業者がその運営をやめ、新規事業者がその路線を引き継ぐ、経営形態の変更にあてはまる物である。どちらも、鉄道事業法等の中では免許上の開業・廃止に関わる項目である。筆者らはそれらを並列に考えるべきと考え、本稿の中では、鉄道路線の新規開業を「開業」、鉄道路線の消滅を「廃止」、その他事業者の変更等を「経営形態変更」と3分類して取り扱う。

調査対象期間は、1975年度から、2010年度までの36年間とした。これは、1975年度は、モータリゼーションの進展による地方中小ローカル私鉄の路線廃止がおおむね一巡した年度であり、現在の公共交通問題を把握するために適切な開始時期であるためである。また、2010年度は直近の国勢調査が行われ、筆者らのデータベース作成において整合性のある終期であるとともに、その年度末に2011年3月11日の東日本大震災が発生し、それ以降公共交通を巡る現状が大きく変化するため、区切りとして適切な時期であることを理由としている。

2.鉄道路線の開業及び廃止に関する資料の収集と考察

(1) 鉄道路線の開業及び廃止に関する資料の概略と解説

交通関連の資料に関しては、佐藤信之（2002）が主な統計資料の種類と概略について考察している⁴。また、奥野一生（1998）は主な参考資料と収蔵箇所について考察している⁵。これまでに筆者らは、佐藤と奥野が提示した資料を参考に、その後の変化も情報収集の検討に加え、鉄道輸送に関する既存統計資料の考察と収集を行い、その電子化とデジタルデータベースの作成を行ってきた⁶。

3 大島登志彦・秋葉健「鉄道輸送統計資料の収集とデジタルデータの作成」『高崎経済大学論集』57巻1号、2014年

4 佐藤信之『鉄道好きの知的生産術』、中央書院、2002年 佐藤の著書は大島の収蔵品リストも参照し作成されている。

5 奥野一生「交通研究のための資料文献と図書館・資料館・博物館」『大阪教育大学地理学会会報』、1998年

6 前項3

そのため、鉄道路線の開業及び廃止においても、その際に収集した資料を参考に、デジタルデータベース化を行うとともに、付表1・付表2に示す年表を作成することができた。

現在の鉄道統計年報は、国土交通省が監修し、電気車研究会から毎年度発行されている、鉄道事業全般に関する統計資料集である。鉄道統計年報は、鉄道を巡る法制度や環境の変化に伴い名称を変えながら刊行が続けられてきた。これらの資料の中には、運輸・財務等のデータのみならず、各年度の鉄道路線の開業と廃止及び経営形態の変更についても一覧表が掲載されている。そのため、筆者らの鉄道開業・廃止データベースの作成において、基礎となる資料となった。

鉄道要覧は、国土交通省が監修し、電気車研究会から毎年度発行されている、鉄道事業者・路線の便覧である。この資料にも、鉄道路線のデータという資料のみならず、各年度の鉄道路線の開業と廃止及び経営形態の変更についても一覧表が掲載されている。

2006年度までは鉄道統計年報と鉄道要覧では発行元が異なっていた⁷。そのため、複数の発行元が作成した資料を照合する事が精度を上げることとなると筆者らは考え、鉄道開業・廃止データベースの作成において、鉄道要覧もその基礎となる資料として活用した。

その他に、鉄道路線の改廃については、路線別・区間ごとの開業・廃止状況をまとめた資料が様々な形で出版されている。直近では今尾恵介(2008)が刊行した資料があり⁸、筆者らの鉄道開業・廃止データベースの作成において、参考資料として活用した。

(2) 国鉄廃止状況資料について

旧国鉄期の公的機関監修による資料については、国鉄の内部資料としての、『(旧) 鉄道統計年報』が存在するのみである。しかし、そこには年度毎の開廃状況は掲載されていない。

1972年以降の、国鉄末期の資料については、『分割民営に至る国鉄の歩み』という、財団法人運輸経済研究センター（1998）による研究成果がある⁹。本稿の国鉄線に関するデータにおいてはその成果と今尾（2008）の資料を活用した。国鉄特定地方交通線の経営形態の変化については、国鉄線の廃止を『分割民営に至る国鉄の歩み』から、第三セクター等の開業を『鉄道統計年報』から引用し、整合性を確認しつつ、データの作成を行った。

余談ではあるが、特定地方交通線の廃止と第三セクター化された路線の一覧については、Wikipediaの「特定地方交通線」の項に掲載されている一覧表が、最もわかりやすくまとめられている資料であった。また、筆者らは前述の運輸経済研究センターの研究成果、鉄道統計年報、鉄道ジャーナル等の鉄道専門誌記事との検証を行ってみた。その結果Wikipediaの一覧表が正確に作成された使用価値の高い資料であることも分かった。このような鉄道等のサブカルチャーが関係する分野では、我々研究者においても、鉄道趣味の趣味人が持つ共有知を活用していくことにより、研究をより効率よく進めていくことが出来るのではないかと考察する。

7 鉄道要覧は電気車研究会が一貫して刊行しており、2006年以前の鉄道統計年報は政府資料等普及調査会から刊行されていた。

8 今尾恵介編「日本鉄道旅行地図帳」全14巻、新潮社、2008年

9 （財）運輸経済研究センター『分割民営に至る国鉄の歩み』、1998年

3.資料内容の検討とデジタル化および年表の作成

本章では、前章までに検討してきた資料をデジタル化し、データベースを作成した上で、分析を行うための年表を作成を行う。はじめに、今後とも継続して活用していくことの出来る資料にしていくために必要な事項を検討する。これまでに述べてきたように、これらは鉄道路線の維持を考察するために時代背景をつかむための土台となる資料である。そのため、データベース作成の上では、①正確性、②可読性、③一貫性の3つの視点を持って作業にあたった。

①正確性の面では、複数の資料を整合し、精度の高い資料になるように努めた。具体的には、『鉄道統計年報掲載』の開業・廃止の資料を第一情報源とした。その上で、『鉄道要覧』掲載の開業・廃止の資料と路線データの開業日を整合し、資料の正確性を確保することにした。しかし、鉄道統計年報・鉄道要覧ともに、元来私鉄・民鉄分の資料として作成されてきたがために、旧国鉄の情報は一切記載がなく、またJRに関してもその内容が漏れている部分が見受けられる。そのため、国鉄・JR初期の資料に関しては『分割民営に至る国鉄の歩み』を第一情報源とし、開業日と第三セクター等への転換については『鉄道要覧』、路線の廃止については今尾が刊行した『日本鉄道旅行地図帳』等の資料と整合し資料の正確性を高めることにした。

②可読性の面では、表記の統一と項目の整理・分類を行った。具体的には、各年次の鉄道統計年報で微妙に表記が異なる内容を統一した基準で年表に掲載するようにした。また、その路線がローカル線か地下鉄かといった、どのような性格を示す路線かを識別できるようにするために、鉄道統計年報における民鉄（地方鉄道）・公営における分類を参考にし、表1に示すように、各路線の改廃においてタグ付けをし、分類を行った。分類においては、民鉄路線は鉄道統計年報の統計部分に記載された内容にほぼ準ずる形で分類を行ったが、旧国鉄線・JR線に関してはそのような分類がなされている資料がなく、筆者らの観点で分類を行い、どの時期にどのようなタイプの路線が廃止されたかわかりやすく示す年表を作成するように努めた。

また、鉄道統計年報においては、開業・廃止等の移動に関する資料は表2に示すように細分化がなされている。筆者らはまず、これらの項目を個別にデジタルベース化を行った。しかし、それぞれの項目において個別に分析を行う事は、項目数の偏りが生じるとともに、見た目にも煩雑で分かりにくいものになってしまう。そのため、筆者らは①鉄道路線の開業②鉄道路線の廃止③経営形態の変更という3大項目に集約し、経営形態の変更の項目については補足説明も加え、本項付表1・付表2に掲載する年表を作成した。また、路線の免許・特許は本研究の対象外とした。

③一貫性の面では、法令の変化に伴う項目の整理と分類を行った。図1に示すとおり鉄道事業に関連する法律は1987年3月までは、国鉄に関しては日本国有鉄道法、国鉄以外の私鉄に関しては地方鉄道法、軌道法の2法によってなされており、合計3法において鉄道事業の免許および監督がおこなわれていた。国鉄の分割民営化に伴い、日本国有鉄道法と地方鉄道法は統合され、鉄道事業法となり、軌道法とともに2法体制によって管理監督がなされることになった。今回の研究において着

表1 鉄道路線の事業形態の区分

記号	項目	事業内容
幹	新幹線	主たる区間を時速200km以上の高速度で走行できる高速鉄道
都	大都市高速鉄道	大都市通勤圏で旅客の輸送を主として行い、再混雑区間が複線以上の鉄道路線および高速軌道線※。 *高速軌道線:鉄道運転規則に従って運転される、専用軌道を使用して走行する軌道路線
S	内 地下鉄線	大都市高速鉄道のうち、地下鉄補助の対象となっている鉄道路線
路	路面電車	高速軌道線に分類されない、軌道線
地	地方旅客鉄道	大都市高速鉄道及び観光鉄道以外の、旅客の地域輸送を主として行う鉄道路線。
観	観光鉄道	観光旅客の輸送を主として行うモノレール、トロリーバス、ケーブルカーなどの路線
貨	貨物鉄道	地域の貨物輸送を専ら行う鉄道路線

鉄道統計年報・鉄道輸送統計月報の定義を元に筆者が行った定義

表2 鉄道統計年報における開業・廃止等の移動に関する資料項目

年度	項目										
S50	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
S55	免許 (地方鉄道)	特許 (軌道)	開業 (地方鉄道)	開業 (軌道)	営業廃止 (地方鉄道)	事業廃止 (軌道)	合併	譲渡・譲受	名称変更		
S60	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
	免許 (地方鉄道)	特許 (軌道)	開業 (地方鉄道)	開業 (軌道)	営業廃止 (地方鉄道)	営業廃止 (軌道)	合併	譲渡	社名変更		
					5.1 営業の廃止	5.2 貨物(小荷物) の廃止	5.3 休止線の 廃止	5.4 未開業線の 廃止			
H02	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
	免許 (鉄道)	特許 (軌道)	開業 (鉄道)	開業 (軌道)	営業休・廃止 (鉄道)	営業休・廃止 (軌道)	合併	譲渡	社名変更		
					5.1 営業休止	5.2 営業廃止					
H07	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
	免許 (鉄道)	特許 (軌道)	開業 (鉄道)	開業 (軌道)	営業休・廃止 (鉄道)	営業休・廃止 (軌道)	合併	譲渡	社名変更		
					5.1 営業廃止	5.2 営業休止	6.1 営業廃止	6.2 営業休止			
H12	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
	許可 (鉄道)	特許 (軌道)	開業 (鉄道)	開業 (軌道)	営業休・廃止 (鉄道)	営業休・廃止 (軌道)	合併	譲渡	社名変更		
					5.1 営業廃止	5.2 未開業線廃止	5.3 営業休止	6.1 営業廃止	6.2 営業休止		
H17	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	許可 (鉄道)	特許 (軌道)	開業 (鉄道)	開業 (軌道)	営業休・廃止 (鉄道)	営業休・廃止 (軌道)	合併	分割	譲渡	社名変更	
					5.1 営業廃止	5.2 未開業線廃止	5.3 営業休止	6.1 営業廃止	6.2 営業休止		
H22	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	特許※ (鉄道)	特許 (軌道)	開業 (鉄道)	開業 (軌道)	営業休・廃止 (鉄道)	営業休・廃止 (軌道)	合併	分割	譲渡	社名変更	失効
					5.1 営業廃止	5.2 未開業線廃止	5.3 営業休止	6.1 営業廃止	6.2 未開業線廃止	6.3 営業休止	

鉄道統計年報各年度より筆者作成 部を今回の調査対象とした

※H22の特許(鉄道)は源資料の明確な誤りであり、鉄道事業法上は許可(鉄道)が正当

図1 鉄道事業免許に関する法律の変遷

~1987年3月	→	1987年4月~
日本国有鉄道法 ・国鉄を対象	→	鉄道事業法(2法を統合) ・鉄道事業者を対象
地方鉄道法 ・国鉄以外の鉄道事業者 を対象		
軌道法 ・軌道事業者を対象	→	軌道法(変更なし) ・軌道事業者を対象

表3 鉄道事業法における鉄道事業者の区分

種別	内容
第一種鉄道事業者	自社が保有する鉄道を使って旅客または貨物を運ぶ事業者
第二種鉄道事業者	他人が保有する鉄道を使って旅客または貨物を運ぶ事業者
第三種鉄道事業者	専ら第二種鉄道事業者に鉄道を使用させる事業者

目すべき旧法と新法の大きな差異は、事業内容の変化において以下に挙げる2点が挙げられる。

一点目は、旧法においては旅客運輸と貨物運輸の運輸内容が免許上の事業内容として明確に区分されていたのに対し、後者ではそれが廃され、区分が無くなったことである。具体的には合理化に伴い旅客運輸を継続し、貨物運輸を廃止するような場合には旧法時期にはその旨鉄道統計年報等に記載されていたが、新法になってからはそれが記載されなくなった。

二点目は、新法では事業内容が線路の保有と運行という2つの観点から区分されるようになったことである。その具体的内容については表3に記載する。

そのため、筆者らが制作した一次資料としてのデジタルデータベースには全項目を網羅し入力しているが、本稿4章においては、それらを加工した路線の登場・消滅を取扱う付表1、経営形態の変更について取扱う付表2を作成し、考察を行った。

また、今回作成した資料は路線の変遷という観点から完成線のみを対象とし、許認可のみで開業に至らない未成線は調査の対象から外した。

4.鉄道路線の開業及び廃止の状況

本章においては、前章までの内容によって収集した資料を基に作成したデータベースを使用し、路線の新設開業、廃止、その他営業形態の変更に項目を絞った付表1・付表2に示す年表をもとに、それに基づいた分析を行なう。

(1) 高度経済成長期の残り香 1975年度～1981年度

この時期の鉄道路線の開業と廃止については、路線開業においては高度経済成長期に計画された路線が長い建設期間をへてようやく開業を迎えたことが挙げられ、路線廃止においては地下鉄建設に伴う大都市内での路面電車の廃止と全国的な貨物支線の縮小が挙げられる。

まず、路線開業においては高度経済成長期に計画された路線が開業を迎えている。それらの路線は①地下鉄と大都市近郊のニュータウン線②臨港鉄道③幹線ルートのバイパス線④日本鉄道建設公団¹⁰建設ローカル線の4種類に区分することができる。

そのうち、②においては海岸部への通勤アクセスを主たる目的とした新交通システムの開業と、港湾と鉄道本線を結ぶ臨港鉄道の開業が見られる。前者について寺前秀一(2007)は、旧建設省管轄の道路インフラ整備に関する助成と、旧運輸省主導の港湾整備に関する助成を併用し建設された関係から、同じ路線であっても軌道法と鉄道事業法によって建設された区間に分かれていることを指摘している¹¹。後者については、高度経済成長期に港湾部に移転した工業地帯で原材料や工業製品を輸送する事を目的としたものであるが、この時点ではすでに鉄道貨物輸送は衰退をはじめてお

10 現:鉄道建設・運輸施設整備支援機構 以下鉄建公団と略す

11 寺前秀一「鉄道・軌道法体系の再構築に関する考察」『地域政策研究』第9巻第2・3合併号、2007年

り、京葉臨海鉄道食品線など20年程度でその短い使命を閉じることになった路線も存在した。③においては武蔵野線や東海道貨物線¹²といった現在の首都圏の主要路線の一部が開業した。

路線廃止については、道路混雑により定時性を失ったことに起因する乗客流出により、採算性が悪化した路面電車の廃止が全国各地で行われた。また、名古屋や福岡においては地下鉄路線の建設に伴い重複する既存の鉄道路線を廃止した事例も生じた。そのほかに、炭鉱の閉山や荷主のトラック輸送への切り替えに伴い、炭鉱や市場への貨物支線が廃止された。

経営体制の変化については、現代的な社名への変化と、一部路線の分社化が見受けられる。うち、後者は従来大きい企業の孤立支線として運営されてきた路線を、路線単独会社に独立させ、小回りのきく経営体制にし、路線の存続を図るものである。この時代の経営体制変更はいずれも、受け皿会社を新設し、そこに鉄道事業を譲渡する形で経営形態の変更が行われた。

以上のことよりこの時期の開業と廃止については、高度経済成長期の残り香となる路線の開業と、都市内路線の改築による現代鉄道への体質の変化が起きたものと考察する。

(2) 国鉄再建の中で 1982年度～1986年度

この時期の鉄道路線の開業と廃止については、路線開業においては東北・上越新幹線の開業、路線廃止と経営形態の変更については、国鉄特定地方交通線の廃止と第三セクター鉄道の転換開業が主なトピックであった。

まず、路線開業については1980年に制定された日本国有鉄道経営再建促進特別措置法（以下国鉄再建法）の施行に伴い、鉄建公団が建設する地方ローカル線の建設が原則停止された。そのため、この時期の国鉄の路線開業は1982年の東北・上越新幹線の開業と既存路線の線路改良に伴う新線開業¹³がそのほとんどであった。しかし、建設が凍結されたローカル線を第三セクターが引き受ける形で、建設を継続することは可能であった。そのため、野岩鉄道や鹿島臨海鉄道等が開業している。また、混雑緩和に向けての都市内部の地下鉄路線の延伸や、通勤新線の新設が進められ、埼京線¹⁴・近鉄東大阪線等が開業した。

次に、路線廃止については国鉄再建法に伴う赤字路線の廃止が行われた。路線廃止は主に臨港部での貨物支線から行われた。その理由は、主に有蓋貨車や無蓋貨車を使用する車扱による貨物輸送が輸送効率の悪さから荷主離れを招いたためである。同様に、私鉄路線でも貨物路線廃止の傾向が見られた。次いで、特定地方交通線の指定が3次によって行われた。特定地方交通線は国鉄再建法の中で平均輸送密度が4000人以下の赤字路線であり、バス輸送への転換が適当であるとされた路線である。それに伴い、特定地方交通線の路線廃止によるバスへの転換や後述する第三セクター鉄道への転換が行われた。

12 現在の横須賀線・湘南新宿ラインの走行ルートとなる品川・大崎—新川崎—横浜間

13 中央本線岡谷—みどり湖—塩尻（1983年7月）・予讃線（内子廻り）1985年3月

14 1985.9.30開業 埼京線は路線愛称であり、東北本線の別線増設扱い

また、経営形態の変更については、第三セクター鉄道への転換がこの時代の中心であった。転換に当たっては、国鉄¹⁵が路線免許を廃止し、受け皿となる第三セクター会社等¹⁶が新規に免許を取得するという形で行われた。これは管轄する法令が国鉄と私鉄では異なっていたためである。それらの路線は、既存路線をそのまま転換したものがその多くを占めたが、三陸鉄道のように建設工事が凍結された未成線区間を開業させ、分断されていた路線を接続させた事例も存在する。

以上のことよりこの時期の鉄道路線の開業と廃止については、国鉄再建に伴う激変期を迎えたと考察する。

(3) JR発足とレールが結ぶ一本列島 1987年度～1992年度

この時期の鉄道路線の開業と廃止については、路線開業においては瀬戸大橋と青函トンネルの開通を中心とした路線網の拡充、路線廃止と経営形態の変更については国鉄の分割民営化による路線廃止と特定地方交通線の転換が挙げられる。

まず、路線開業については1988年3月に青函トンネル（JR北海道・海峡線）が開通し、続く4月に瀬戸大橋（JR四国・本四備讃線）が開通した。これにより、日本列島が鉄道で繋がった。JRグループは「レールが結ぶ、一本列島」というキャッチコピーを大々的に打ち出し、バブル景気のまっただ中に、国鉄からJRグループへと鉄道新時代のイメージを形づけた。

また、JR自体も民営化後にJR東日本の上越新幹線のガーラ湯沢延伸¹⁷など既存施設を活用した新線の開業を行っている。また、阿武隈急行など、国鉄再建法の中で建設が中断されていた路線の第三セクターによる開業も行われている。さらに、地下鉄線の延伸やニュータウンアクセス鉄道の開業が相次いで行われた。しかし、これらの路線はバブル崩壊後の長引く景気低迷の中で、経営難に喘ぐことになり、その概況については本章4節・5節で後述する。

次に、路線廃止については、特定地方交通線の廃止がその中心であった。この時期になると、特定地方交通線の廃止も終盤となっており、北海道においては名寄本線や天北線など100kmを超える長大ローカル線も廃止された。一方民鉄線においては、貨物路線と路面電車の廃止がその中心となり、地方ローカル私鉄線の廃止はあまり見られない。筆者らはこの頃はバブル景気と重なっているため、企業の内部補助によって路線維持がなされたものと考えており、今後財務諸表等のデジタルアーカイブ化と分析を行っていく上での研究課題としていきたい。

また、経営形態の変更については国鉄の分割民営化と特定地方交通線の転換がその中心となった。1987年3月31日を持って国鉄はその幕を閉じ、その路線は同年4月1日に発足したJR各社に受け継がれた。同時に鉄道業に関する法令が改正され、日本国有鉄道法・地方鉄道法・軌道法の3法体制から、図1に示す通り鉄道事業法・軌道法の2法体制となった。

鉄道事業法の中では上下分離による鉄道運営が法的に制度化され、鉄道事業の運営形態により表

15 分割民営化後はJR各社

16 第三セクターでは無く、民間企業が受け皿となったのは黒石線（弘南鉄道へ）・大畑線（下北交通へ）の2線区のみである

17 車両基地・保守基地施設をスキー場へのアクセスとして活用したもの

3に示す3制度に分類された。また、神戸高速鉄道など、従来から上下分離形態で運営していた鉄道事業者はそれぞれの形態に整理された。鉄道事業法における、上下分離での新規路線開業第一号は、1991年3月に開業した、成田空港高速鉄道¹⁸であった。また、ローカル線の上下分離による維持を始めに試みたのは、JR西日本と石川県であり、特定地方交通線の対象外であった七尾線の末端区間を、1991年9月に第三セクターのものと鉄道に転換している。

以上のことよりこの時期の開業と廃止については、特定地方交通線の廃止以外はバブル景気の影響もあり、鉄道の変革と成長の時期を迎えたものと考察する。

(4) 安定と均衡 1993年度～1997年度

この時期の鉄道路線の開業と廃止については、路線開業においては都市鉄道の充実、路線廃止においては主に貨物支線の縮小、整備新幹線開業に伴う転換が始まったこと等が挙げられる。

まず、路線開業については都市鉄道の充実と鉄建公団建設路線の完成がある。前者においては空港アクセス路線や新交通システムの整備が行われた。後者においては、国鉄再建法で建設が中断された路線が開業している。その中には、計画時よりも路線の規格を向上させ、高速運行により既存路線のバイパス機能を担おうとした、智頭急行線や北越急行線がある。

次に、路線廃止については貨物が輸送の中心であった路線の廃止や、線路付替による廃止等が行われたが、その件数は他の時期よりも多くはない。これは、モータリゼーションによって維持が不可能になった路線の廃止と、特定地方交通線の廃止がこの時期において一段落したものと考察する。

しかし、国の補助金制度において欠損補填型の補助金制度が廃止されたことに伴い、野上電気鉄道など事業廃止へ舵を取った事業者も存在する。また、特筆すべきものとしては国鉄特定地方交通線として、民間企業に転換し運行されていた弘南鉄道黒石線の廃止が挙げられ、国鉄が経営困難で切り離れた路線は、経営形態を変更しても運営が難しいことを示したと考察する。

さらに、経営形態の変更についてはその後の経営形態変更の先駆けと言える事例が生じている。整備新幹線の開業に伴う並行在来線の廃止・転換と地方ローカル私鉄の第三セクター化である。前者は1997年の北陸新幹線高崎・長野間開業に伴うもので、並行在来線である信越線横川・軽井沢間が廃止され、軽井沢・篠ノ井間が第三セクターのしなの鉄道に転換された。これは、並行在来線は特急列車による長距離利用客がその中心であり、新幹線の開業により特急利用客が遷移した場合、ローカル客のみとなる並行在来線の運営が困難となるとされたためである¹⁹。後者においては栗原電鉄が民間資本から第三セクター資本のくりはら田園鉄道へと資本構成と社名変更を行い存続を模索した。

以上のことよりこの時期の開業と廃止については、地方部では縮小均衡、都市部では新線の開業によっておおむね安定した時期を経ているが、一方でその後の変革期の萌芽が見出せると言える。

18 成田空港高速鉄道は第三種、第二種鉄道事業者はJR東日本（成田線）・京成電鉄（京成本線）

19 高崎経済大学経済学会平成26年度第1回学術講演会（2014年7月1日）JR東海相談役須田寛氏の講演内容による

(5) 路線維持の瀬戸際 上下分離と路線廃止 1998年度～2010年度

この時期の鉄道路線の開業と廃止については、路線開業においては上下分離も活用した都市内路線網の充実、路線廃止においては旅客数減少の中での全国的なローカル路線廃止、経営形態の変更においては上下分離による路線維持の取組と鉄道事業の分社化が挙げられる。

まず、路線開業については地下鉄線の延伸と空港アクセス鉄道や新交通システムの整備等、都市内鉄道の充実がその中心であった。助成制度を活用し効率的に新線を建設するための、償還型上下分離方式での路線開業を行った事例が京阪中之島線や阪神なんば線等で見られた。また、富山においては路面電車の新線建設など、中心市街地活性化と連携した新たな流れの路線建設が行われた。また、整備新幹線においては東北新幹線・九州新幹線が全線開業している。

次に、路線廃止については、赤字路線の廃止に踏み切った企業が多く存在する。大手では、名古屋鉄道が2001年と2005年の二次にわたりローカル線の廃止を行い、ローカル輸送から撤退し、都市鉄道だけに経営資源を集中させた。地方部では、JR可部線や島原鉄道の末端部など民間事業者において路線存続をあきらめた事例が存在するほか、北海道ちほく高原鉄道やのと鉄道の末端部など、第三セクター鉄道においても経営を断念する事例が生じた。また、新交通システムにおいても、ニュータウンアクセスを目的に建設された桃花台新交通が利用低迷により廃止されるなど、大都市近郊以外での全国的な少子高齢化と人口減少、さらにマイカー社会の浸透により路線廃止が進行した。

また、経営形態の変更については、上下分離や民間事業者の第三セクター化による路線存続を図った例が、都市部の北神急行電鉄や地方部の伊賀鉄道・若桜鉄道など、大都市内部や地方といった立地を問わずに発生している。

また、大井川鐵道や十和田観光電鉄では新会社に事業を譲渡し、旧会社を精算することで戦前の帳簿価格の時価への洗い直しを行うことによって財務内容の改善を図った例や、相模鐵道や上田電鉄等では鉄道事業を分社化することで、鉄道事業の経営責任の明確化を図った事例が存在する。

以上のことよりこの時期の開業と廃止については、路線維持の瀬戸際の中で、存続か廃止かを巡る議論とともにそれに合わせた取り組みがなされた、第二の変革の時期を迎えたと考察する。

5.おわりに

今回の研究において、近年の鉄道路線の改廃の年次を追った傾向について、資料収集と作成を通じて、ある程度の考察を行うことができた。全体を通じ、都市部では発展と充実が図られていく一方、地方部では少子高齢化と人口減少の中で、利用客の減少による縮小傾向にあることが考察される。一方で、その分析において必要な資料は民鉄（私鉄）においては充実した整備がなされているものの、国鉄末期からJRにかけての資料に関しては、鉄道要覧や鉄道統計年報等の公的機関が監

修正した資料に情報の欠損や不備があるなど、日本の公共交通行政の課題点の一つを発見した。

今回収集・作成した資料は、今後筆者らが各種研究を行うための、基礎となるものである。しかし、まだ基礎的な路線改廃資料のデジタル化と、その概要の分析にとどまっている。一方でこの研究の成果により、鉄道の開廃・経営形態変更に関するデータベースを構築することができたため、今後の筆者らの研究進捗に大きく寄与すると考える。今後は、今回の研究において作成した開廃・経営形態変更データや、従前の研究において作成した輸送データを基にして、今度作成していく予定の、沿線人口や収支といった項目と関連付け、総合的に考察することにより、公共交通維持の必要条件について分析を行っていききたい。

本稿の作成に際しては、大島が源資料の収集とその資料の信憑性の検証を、秋葉が資料のデジタル化と傾向の考察を行った。また、資料に関しては、大島がこれまでに収集してきた資料の他に、法政大学日本統計研究所、鉄道博物館ライブラリーに所蔵されている貴重な資料を活用させていただきました。また、放送大学図書情報課情報サービス係、国土交通省図書館には、必要となった資料の検索にご協力いただきました。付記して、御礼申し上げます。

（おおしま としひこ・本学経済学部教授/

あきば たけし・本学大学院経済・経営研究科博士前期課程）

付表1 1975年度～2010年度の鉄道路線の開業および廃止の状況

開業							廃止								
形態	月日	事業者	路線	起点	終点	距離	種別	形態	月日	事業者	路線	起点	終点	距離	種別
1975年度 (昭和50年度)							1975年度 (昭和50年度)								
都	4.23	小田急電鉄	多摩線	小田急永山	小田急センター	2.3	地	貨	4.1	国鉄	山陰本線	東松江	馬潟口	1.0	国
都	4.26	京浜急行電鉄	久里浜線	三浦海岸	三崎口	2.2	地	路	5.6	阪神電気鉄道	国道線	上甲子園	野田	10.7	軌
貨	5.10	国鉄	京葉線	千葉貨物ターミナル	蘇我	6.5	国				北大阪線	野田	天神橋筋六丁目	4.3	
貨	5.10	京葉臨海鉄道	食品線	千葉貨物ターミナル	食品南	1.3	地	地	10.1	大分交通	甲子園線	上甲子園	浜甲子園	2.8	地
					食品北	1.2						耶馬溪線	中津	野路	
都	7.6	名古屋鉄道	知多新線	上野間	知多奥田	2.3	地	貨	11.1	北九州市	本線	国鉄若松駅	北湊	1.3	軌
地	7.20	国鉄	久慈線	久慈	普代	26.0	国				連歌浜支線	中川通7丁目	安瀬	2.1	
親	7.20	沖縄国際海洋博覧会協会		北ゲート	南ゲート	1.4	軌				浜十二番町支線	中川通7丁目	浜町	0.5	
											埠頭支線	埠頭支線		0.1	
地	8.31	国鉄	三江線	口羽	浜原	29.6	国	路	11.2	西日本鉄道	福岡市内線	九大前	姪の浜	11.9	軌
貨	9.1	仙台臨海鉄道	仙台埠頭線	仙台港	仙台埠頭	1.6	地				城南線	渡辺通1丁目	西新	5.0	
貨	11.15	衣浦臨海鉄道	半田線	半田埠頭	東成岩	3.4	地	親	1.19	沖縄国際海洋博覧会協会	呉服町線	呉服町	祇園町	0.8	軌
貨	3.1	国鉄	東海道本線	浜川崎	鶴見	5.3	国					北ゲート	南ゲート	1.4	
貨	3.1	国鉄	武蔵野線	鶴見	府中本町	28.8	国	都	2.15	名古屋鉄道	瀬戸線	堀川	東大手	2.0	地
貨	3.16	国鉄	東海道本線	梅小路	京都市場	2.8	国	地	2.25	近畿日本鉄道	八王子線	西日野	伊勢八王子	1.6	地
								路	3.7	豊橋鉄道	柳生橋支線	新川	柳生橋	0.9	軌
1976年度 (昭和51年度)							1976年度 (昭和51年度)								
都	4.4	名古屋鉄道	知多新線	知多奥田	野間	1.7	地	親	4.1	浦島観光		赤島	狼煙山	0.1	地
都	4.8	相模鉄道	いずみ野線	二俣川	いずみ野	6.0	地	路	4.1	仙台市	循環線	仙台駅前	仙台駅前	6.0	軌
地	4.26	国鉄	岡多線	北野野塚	新豊田	10.8	国				長町線	中央三丁目	長町駅前	4.2	
S	5.6	東京都	三田線	西高島平	高島平	1.5	地				原町線	花京院	原町駅前	3.0	
S	6.10	札幌市	東西線	琴似	白石	9.9	地	八幡町線	大学病院前	八幡神社前	1.6	軌			
S	9.4	横浜市	1号線	上大岡	上永谷	2.8	地	丸太町線	天王町	円町	5.4				
			3号線	伊勢崎長町	関内	0.7	地	今出川線	銀閣寺道	百梅町	5.6				
都	10.15	東京急行電鉄	田園都市線	すずかけ台	つきみ野	2.3	地	白川線	天王町	銀閣寺道	1.3	軌			
S	3.13	神戸市	西神線	名谷	新長田	5.7	地	貨	9.20	国鉄	武蔵野線		北府中	下川原	3.8
S	3.18	名古屋市	鶴舞線	伏見	八事	8.0	地	貨	10.1	国鉄	函館本線	東札幌	伊寒	2.8	国
								貨	10.1	東武鉄道	仙石河岸線	西小泉	仙石河岸	3.0	地
								貨	3.1	十勝鉄道		帯広	工場前	3.4	地
								地	3.20	尾小屋鉄道		新小松	尾小屋	16.8	地
1977年度 (昭和52年度)							1977年度 (昭和52年度)								
S	4.6	大阪市	谷町線	都島	守口	5.4	軌	貨	7.10	国鉄	宮田線	磯光	菅牟田	2.2	国
都	4.7	東京急行電鉄	新玉川線	渋谷	二子玉川園	9.4	地	路	10.1	京都市	河原町線	洛北高校前	七条河原町	6.2	軌
貨	5.25	衣浦臨海鉄道	碧南線	東浦	権現崎	11.3	地				七条線	西大路七条	七条河原町	2.9	
都	8.20	大阪府都市開発	泉北鉄道	梅美木多	光明池	1.9	地				烏丸線	七条烏丸	京都駅前	0.3	
貨	12.1	国鉄	気仙沼線	柳津	本吉	34.0	国	貨	3.31	国鉄	伊田線	赤池	赤池炭鉱	0.3	国
S	3.16	札幌市	南北線	北24条	麻生	2.2	地	貨	3.31	国鉄	総武本線	銚子	新生	0.8	国
S	3.31	首都高速交通営団	千代田線	代々木公園	代々木上原	1.0	地								
1978年度 (昭和53年度)							1978年度 (昭和53年度)								
都	5.21	京成電鉄	空港線	京成成田	成田空港	7.1	地	地	9.19	北恵那鉄道		中津町	下付知	22.1	地
S	8.1	首都高速交通営団	半蔵門線	渋谷	青山一丁目	2.7	地	貨	10.1	国鉄	東海道本線	白鳥	名古屋市場	1.2	国
都	8.20	名古屋鉄道	瀬戸線	栄町	東大手	1.4	地	貨	10.1	国鉄	唐津線	山本	相知炭鉱	6.1	国
S	10.1	名古屋市	鶴舞線	八事	赤池	5.4	地	路	10.1	京都市	西大路線	千本北大路	西大路九条	7.4	軌
都	10.2	国鉄	武蔵野線	新松戸	西船橋	14.3	国				東山線	高野	東福寺	6.8	
都	12.12	能勢電鉄	日生線	山下	日生中央	2.6	地				北大路線	高野	千本北大路	4.3	
S	12.21	東京都	新宿線	岩本町	東大島	6.8	地				九条線	東福寺	西大路九条	3.6	
都	3.9	北総開発鉄道	北総線	北初富	小室	7.9	地	七条線	東山七条	河原町七条	0.9	軌			
								路	10.1	京都市	河原町線		河原町七条	京都駅前	0.6
								貨	10.2	国鉄	函館本線	桑園	札幌市場	1.6	国
								貨	10.2	国鉄	函館本線	近文	旭川大町	2.9	国
								路	11.1	函館市	本線	ガス会社前	五稜郭駅前	1.6	軌
								貨	11.1	東濃鉄道	笠原線	新多治見	笠原	4.6	地
								貨	12.1	国鉄	塩電線	塩釜港	塩竈市場	2.1	地
								親	12.1	よみうりランド		サッカー場	サッカー場	2.9	地
								親	1.26	姫路市		姫路	千柄山	1.6	地

近年における鉄道路線の開業及び廃止の状況（大島・秋葉）

開業							廃止								
種別	月日	事業者	路線	起点	終点	距離	種別	種別	月日	事業者	路線	起点	終点	距離	種別
1979年度（昭和54年度）							1979年度（昭和54年度）								
都	7.29	名古屋鉄道	豊田線	赤池	梅坪	15.2	地	貨	7.1	国鉄	予讃線	多度津	浜多度津	2.2	国
S	9.21	帝都高速度交通営団	半蔵門線	青山一丁目	永田町	1.4	地	貨	10.6	相模鉄道	保土ヶ谷支線	保土ヶ谷	西横浜	1.0	地
貨	10.1	国鉄	東海道本線	汐留	戸塚	47.3	国	貨	11.1	国鉄	気仙沼線	南気仙沼	気仙沼港	1.3	国
貨	10.1	秩父鉄道	三ヶ尻線	熊谷駅南側	武川	7.6	地	貨	11.1	国鉄	山陽本線	姫路	姫路市場	1.5	国
S	12.20	帝都高速度交通営団	千代田線	綾瀬	北綾瀬	2.1	地	観	3.21	兵衛旅館		万年	向陽	0.1	地
S	3.16	東京都	新宿線	新宿	岩本町	7.3	地								
S	3.27	帝都高速度交通営団	有楽町線	銀座一丁目	新富町	0.7	地								
1980年度（昭和55年度）							1980年度（昭和55年度）								
都	6.5	名古屋鉄道	知多新線	野間	内海	4.1	地	地	4.1	富山地方鉄道	射水線	新富山	新港東口	14.4	地
貨	10.1	国鉄	石北線	東旭川	北旭川	6.2	国	貨	8.1	国鉄	石巻線	女川	女川港	1.4	国
S	11.27	大阪市	谷町線	天王寺	八尾南	10.5	軌	地	9.14	北陸鉄道	能美線	新寺井	鶴来	16.7	地
都	2.5	神戸新交通	ポートアイランド線	ポートターミナル	中公園	6.4	地・軌	貨	10.1	国鉄	東海道本線	尼崎	尼崎市場	1.5	国
都	3.16	大阪市	鶴鳴ポートライン線	中埠頭	住之江公園	6.6	地・軌	貨	10.1	国鉄	東海道本線	名古屋港	堀川口	3.4	国
								路	11.2	西日本鉄道	北方線	魚町	北方	4.6	軌
								路	11.28	南海電気鉄道	大浜線	宿院	大浜海岸	1.4	軌
								路	11.28	南海電気鉄道	平野線	今池	平野	5.9	軌
1981年度（昭和56年度）							1981年度（昭和56年度）								
S	5.29	京都市	烏丸線	北大路	京都	6.6	地	地	4.1	福井鉄道	南越線	社武生	粟田郡	8.7	地
S	7.26	福岡市	1号線	室見	天神	5.8	地	地	7.1	国鉄	夕張線	紅葉山	登川	7.6	国
地	10.1	国鉄	石勝線	千歳空港	追分	17.6	国	都	12.20	能勢電鉄	妙見線	川西能勢口	川西国鉄前	0.6	地
S	11.27	名古屋屋	鶴舞線	浄心	伏見	2.9	地	貨	2.28	国鉄	鹿兒島本線	黒崎	黒崎港	2.1	国
S	12.2	大阪市	千日前線	新深江	南巽	3.0	軌								
S	3.21	札幌市	東西線	白石	新さっぽろ	7.4	地								
1982年度（昭和57年度）							1982年度（昭和57年度）								
S	4.20	福岡市	1号線	天神	中洲川端	0.9	地	貨	10.1	国鉄	和歌山線	大和二見	川端	1.5	国
貨	4.26	名古屋臨海鉄道	東築線	東港	名電築港	1.3	地	貨	11.15	国鉄	東海道本線	高島	表高島	1.3	国
幹	6.23	国鉄	東北新幹線	大宮	盛岡	505.0	国	貨	11.15	国鉄	東海道本線	東高島	横浜市場	1.2	国
路	7.31	豊橋鉄道	東田本線	井原	岩田運動公園	0.6	軌	貨	11.15	国鉄	五日市線	武蔵五日市	大久野	2.0	国
S	9.21	名古屋屋	東山線	中村公園	高畑	3.1	地	貨	11.15	国鉄	鶴見線	浅野	鶴見川口	2.4	国
地	11.2	山万	ユーカリが丘線	ユーカリが丘	中学校	2.7	地	貨	11.15	国鉄	東海道本線	笹島	白鳥	4.9	国
幹	11.15	国鉄	上越新幹線	大宮	新潟	303.6	国	貨	11.15	国鉄	紀勢本線	新宮	熊野地	1.5	国
貨	11.15	国鉄	東海道本線	千里丘	岸辺	19.1	国	貨	11.15	国鉄	桜島線	安治川口	大阪北港	3.4	国
S	12.9	帝都高速度交通営団	半蔵門線	永田町	半蔵門	1.0	地	貨	11.15	国鉄	片町線	放出	淀川	4.8	国
都	12.11	名古屋鉄道	羽島線	羽島信号所	新羽島	1.4	地	貨	11.15	国鉄	鹿兒島本線	葛葉	門司埠頭	1.6	国
S	2.8	大阪市	谷町線	守口	大日	1.8	軌	貨	11.15	国鉄	唐津線	福岡港	福岡市場	1.1	国
地	3.22	国鉄	筑肥線	虹ノ松原	唐津	5.1	国	貨	11.15	国鉄	唐津線	西唐津	大島	1.9	国
S	3.22	福岡市	1号線	姪浜	室見	1.5	地	貨	11.15	国鉄	根室本線	厚岸	浜厚岸	1.2	国
								地	3.22	国鉄	筑肥線	博多	姪浜	11.7	国
1983年度（昭和58年度）							1983年度（昭和58年度）								
貨	4.1	仙台臨海鉄道	仙台西港線	仙台港	仙台西港	2.5	地	地	6.1	東武鉄道	熊谷線	熊谷	妻沼	10.1	地
S	6.17	神戸市	山手線	新長田	大倉山	4.3	地	観	9.1	近畿日本鉄道	東信貴鋼索線	信貴山下	信貴山	1.7	地
S	6.24	帝都高速度交通営団	有楽町線	菅田成増	池袋	9.3	地	地	10.23	国鉄	白糠線	白糠	北進	33.1	国
地	7.5	国鉄	中央本線	岡谷	塩尻	11.7	国	貨	2.1	国鉄	山田線	宮古	宮古港	2.0	国
地	9.22	山万	ユーカリが丘線	中学校	公園	1.4	地	貨	2.1	国鉄	常磐線	水戸	那珂川	1.1	国
都	10.1	西武鉄道	有楽町線	新桜台	小竹向原	1.2	地	貨	2.1	国鉄	東海道本線	汐留	東京市場	1.1	国
地	12.22	埼玉新都市交通	伊奈線	大宮	羽貫	11.6	地	貨	2.1	国鉄	東海道本線	梅小路	京都市場	2.8	国
S	12.23	東京都	新宿線	東大島	船堀	1.7	地	貨	2.1	国鉄	七尾線	七尾	七尾港	2.1	国
都	3.19	住宅・都市整備公団	千葉ニュータウン線	小室	千葉ニュータウン中央	4.0	地	貨	2.1	国鉄	関西本線	百済	百済市場	2.1	国
								貨	2.1	国鉄	大阪環状線	浪速	大阪港・大阪東港	6.4	国
								貨	2.1	国鉄	大阪環状線	野田	大阪市場	1.5	国
								貨	2.1	国鉄	山陽本線	兵庫	神戸市場	2.7	国
								貨	2.1	国鉄	山陽本線	新川	兵庫港	1.9	国
								貨	2.1	国鉄	福知山線	塚口	尼崎港	4.6	国
								貨	2.1	国鉄	予讃線	坂出	坂出港	2.9	国

開業							廃止								
種	月日	事業者	路線	起点	終点	距離	種別	種	月日	事業者	路線	起点	終点	距離	種別
貨	2.1	国鉄	日豊本線	西大分	大分港	2.0	国	貨	2.1	国鉄	鹿児島本線	鹿児島	鹿児島港	1.9	国
貨	2.1	国鉄	函館本線	小樽築港	浜小樽	3.2	国	貨	2.1	国鉄	石北本線	網走	浜網走	1.3	国
貨	2.1	国鉄	根室本線	東釧路	天寧	1.5	国	貨	2.1	秩父鉄道		影森	武甲	1.4	地
貨	2.1	別府鉄道	土山線	別府港	土山	4.1	地	貨	2.1	別府鉄道	野口線	別府港	野口	3.7	地
貨	2.1	釧路開発埠頭	埠頭線	新富士	北埠頭	1.7	地	地	3.18	鹿児島交通	枕崎線	伊集院	枕崎	49.6	地
1984年度 (昭和59年度)							1984年度 (昭和59年度)								
地	4.1	三陸鉄道	北リアス線 南リアス線	田老 吉浜	普代 釜石	32.2 15.0	地	地	4.1	国鉄	相模線	寒川	西寒川	1.5	国
都	4.9	東京急行電鉄	田園都市線	つきみ野	中央林間	1.2	地	地	4.1	国鉄	清水港線	清水	美保	8.3	国
S	4.27	福岡市	2号線	呉服町	馬出九大病院前	1.6	地	地	4.1	国鉄	日中線	喜多方	熱塩	11.6	国
S	9.6	名古屋市	鶴舞線	浄心	庄内緑地公園	2.7	地	地	4.1	国鉄	魚沼線	来迎寺	西小千谷	12.6	国
都	1.9	北九州高速鉄道	小倉線	小倉	企救丘	8.4	軌	地	4.1	国鉄	赤谷線	新発田	東赤谷	18.9	国
S	3.3	福岡市	1号線	(仮)博多	博多	0.3	地	都	11.18	南海電気鉄道	天王寺支線	天下茶屋	今池町	1.1	地
幹	3.14	国鉄	東北新幹線	上野	大宮	26.7	国	地	12.1	国鉄	高砂線	加古川	高砂	6.3	国
S	3.14	横浜市	1号線 3号線	上永谷 横浜	舞岡 新横浜	2.0 7.0	地	地	12.1	国鉄	妻線	佐土原	杉安	19.3	国
地	3.14	鹿児島臨海鉄道	大洗鹿児島線	水戸	北鹿島	53.0	地	地	12.1	国鉄	官原線	恵良	肥後小国	26.6	国
								地	12.29	岡山臨港鉄道		大元	岡山港	8.1	地
								地	1.1	国鉄	香椎線	酒殿	志免	1.6	国
								地	12.31	松本電気鉄道	上高地線	鳥々	新鳥々	1.3	地
								貨	3.1	国鉄	東海道本線	汐留	芝浦	2.8	国
								貨	3.14	国鉄	八戸線	本八戸	湊	2.7	国
								貨	3.14	国鉄	東海道本線	神戸港	湊川	2.4	国
								貨	3.14	国鉄	舞鶴線	西舞鶴	舞鶴港	1.8	国
								貨	3.14	国鉄	関西本線	四日市	四日市港	2.5	国
								地	3.14	国鉄	小松島線	中田	小松島	1.9	国
								貨	3.14	国鉄	鹿児島本線	博多港	福岡港	3.1	国
								貨	3.14	国鉄	室蘭本線	室蘭	西室蘭	2.5	国
1985年度 (昭和60年度)							1985年度 (昭和60年度)								
S	4.5	大阪市	中央線	深江橋	長田	3.2	軌	地	4.1	国鉄	弥彦線	東三条	越後長沢	7.9	国
観	4.25	西武鉄道	山口線	西武球場前	西武遊園地	2.8	地	地	4.1	国鉄	倉吉線	倉吉	山守	20.0	国
S	6.18	神戸市	山手線 西神延伸線	大倉山 名谷	新神戸 学園都市	3.3 3.5	地	地	4.1	国鉄	香月線	中間	香月	3.5	国
観	9.30	国鉄	東北本線	赤羽	大宮	18.0	国	地	4.1	国鉄	室木線	速賀川	室木	11.2	国
S	1.31	福岡市	2号線	馬出九大病院前	箱崎九大前	1.6	地	地	4.1	国鉄	添田線	香春	添田	12.1	国
都	3.3	国鉄	京葉線	千葉港	西船橋	18.4	国	地	4.1	国鉄	勝田線	吉塚	筑前勝田	13.8	国
地	3.3	国鉄	予讃本線	向井原 伊予大洲	内子 新谷	23.5 5.9	国	地	4.1	国鉄	矢部線	羽木塚	黒木	19.7	国
								地	4.1	国鉄	万字線	志文	万字炭山	23.8	国
								地	4.1	国鉄	渚滑線	渚滑	北見滝ノ上	34.3	国
								地	4.1	国鉄	相生線	美幌	北見相生	36.8	国
								貨	4.1	同和鉱業	花岡線	大館	花岡	4.8	地
								地	4.1	蒲原鉄道		村松	加茂	17.7	地
								路	4.14	阪神電気鉄道	武庫川線	武庫川	武庫大橋	1.3	地
								地	5.1	加悦鉄道		加悦	丹後山田	5.7	地
								貨	6.1	太平洋石炭販売輸送		東釧路	城山	5.2	地
								地	7.1	国鉄	岩内線	岩内	岩内	14.9	国
								地	7.1	国鉄	興浜北線	浜頓別	北見枝幸	30.4	国
								地	7.15	国鉄	興浜南線	興部	雄武	19.9	国
								地	9.17	国鉄	美幸線	美深	仁宇布	21.2	国
								路	10.1	鹿児島市	上町線 伊敷線	清水町 鍛冶屋町	私学校跡 伊敷町	2.3 3.9	軌
								路	10.20	西日本鉄道	枝光線 戸畑線 北九州線	中央町 大門 門司	幸町 戸畑 砂津	4.8 5.5 11.6	軌
								貨	11.5	国鉄	手宮線	南小樽	手宮	2.8	国
地	2.16	熊本電気鉄道					地	3.3	国鉄	内子線	御代志	菊池	13.5	地	
地							地				五郎	新谷	3.5	国	

近年における鉄道路線の開業及び廃止の状況（大島・秋葉）

開業							廃止								
形態	月日	事業者	路線	起点	終点	距離	種別	形態	月日	事業者	路線	起点	終点	距離	種別
1986年度（昭和61年度）							1986年度（昭和61年度）								
S	9.14	東京都	新宿線	船堀	篠崎	4.9	地	地	4.1	国鉄	漆生線	下鴨生	下山田	7.9	国
都	10.1	近畿日本鉄道	東大阪線	長田	生駒	10.2	地・軌	貨	6.1	北陸鉄道	小松線	小松	鸛川遊泉寺	5.9	地
地	10.9	野岩鉄道	会津鬼怒川線	新藤原	会津高原	30.7	地	貨	10.20	国鉄	信越本線	沼垂	新潟港	1.4	国
S	11.12	福岡市	2号線	箱崎九大前	貝塚	1.0	地	貨	10.21	東武鉄道	大叶線	上白石	大叶	1.6	地
S	3.18	神戸市	西神延伸線	学園都市	西神中央	5.9	地	貨	11.1	国鉄	東海道本線	高島	山下埠頭	6.3	国
								貨	11.1	国鉄	東海道本線	神戸港	摩耶埠頭	4.5	国
								貨	11.1	国鉄	鶴見線	安善	浜安善	1.1	国
								貨	11.1	国鉄	播但線	姫路	飾磨港	5.6	国
								貨	11.1	国鉄	北陸本線	東富山	蓮町	8.5	国
								貨	11.1	国鉄	富山港線	大広田	富山港	7.8	国
								貨	11.1	国鉄	函館本線	白石	東札幌	3.0	国
								地	11.1	国鉄	富内線	鶴川	日高町	82.5	国
								地	11.1	国鉄	胆振線	伊達紋別	倶知安	83.0	国
								貨	11.1	太平洋石炭販売輸送	東釧路	春採	3.3	地	
								貨	12.31	上武鉄道	知人	臨港	1.0	地	
								地	1.10	国鉄	宮之城線	丹生	西武化学前	6.1	地
								地	2.2	国鉄	広尾線	川内	薩摩大口	66.1	国
								地	3.14	国鉄	大隅線	帯広	広尾	84.0	国
								地	3.16	国鉄	大隅線	志布志	国分	98.3	国
								地	3.20	国鉄	瀬棚線	国縫	瀬棚	48.4	国
								地	3.20	国鉄	湧網線	中湧別	網走	89.8	国
								地	3.23	国鉄	士幌線	帯広	十勝三股	78.3	国
								地	3.28	国鉄	佐賀線	佐賀	瀬高	24.1	国
								地	3.28	国鉄	志布志線	西都城	志布志	38.6	国
								地	3.30	国鉄	羽幌線	留萌	幌延	141.1	国
								貨	3.31	国鉄	長崎本線	長崎	長崎港	1.1	国
								貨	3.31	国鉄	石北本線	東旭川	北旭川	6.2	国
1987年度（昭和62年度）							1987年度（昭和62年度）								
S	4.18	大阪市	御堂筋線	我孫子	中百舌鳥	5.0	軌	地	4.1	筑波鉄道	筑波線	土浦	岩瀬	40.1	地
S	5.24	横浜市	1号線	舞岡	戸塚	1.6	一	地	4.29	北陸鉄道	金名線	白山下	加賀一の宮	16.8	一
S	7.15	仙台市	南北線	八乙女	富沢	13.6	一	貨	5.1	東武鉄道	千住貨物支線	北千住分岐	千住	0.6	一
S	8.25	首都高速交通管団	有楽町線	和光市	営団成増	2.2	一	地	7.13	JR北海道	幌内線	岩見沢	幾春別・幌内	20.8	一
地	1.31	愛知環状鉄道	愛知環状鉄道線	新豊田	高蔵寺	25.8	一	貨	7.22	三菱石炭鉱業	大夕張線	清水沢	南大夕張	7.6	一
地	3.13	JR北海道	海峡線	中小国	木古内	87.8	一	地	2.1	JR北海道	松前線	木古内	松前	50.8	一
地	3.20	JR西日本	本四備讃線	茶屋町	児島	12.9	一	地	2.1	JR九州	山野線	水俣	粟野	55.7	一
都	3.28	千葉都市モノレール	2号線	千城台	スポーツセンター	8.0	軌								
1988年度（昭和63年度）							1988年度（昭和63年度）								
都	4.2	北神急行電鉄	北神線	新神戸	谷上	7.5	一	地	4.25	JR北海道	歌志内線	砂川	歌志内	14.5	一
地	4.10	JR四国	本四備讃線	児島	宇多津	18.1	一	路	6.1	名古屋鉄道	岐阜市内線	徹明町	長良北町	3.9	軌
都	5.21	京王帝都電鉄	相模原線	京王多摩センター	南大沢	4.5	一	地	9.1	JR九州	上山田線	豊前川崎	上山田	25.9	一
S	6.8	帝都高速交通管団	有楽町線	新富町	新木場	5.9	一	貨	11.1	栗原電鉄		細倉	細倉鉾山	0.7	一
S	6.11	京都市	烏丸線	京都	竹田	3.4	一	貨	3.26	三井芦別鉄道		芦別	頼城	9.1	一
地	7.1	阿武隈急行	阿武隈急行線	福島	丸森	37.5	一	貨	3.29	JR東日本	足尾線	間藤	足尾本山	1.9	一
観	7.9	青函トンネル記念館	青函トンネル 竜飛斜線	青函トンネル 記念館	体験坑道	0.8	一								
地	7.16	宮福鉄道	宮福線	宮津	福知山	30.4	一								
都	12.1	JR東日本	京葉線	新木場	南船橋・西船橋	24.5	一								
S	12.2	札幌市	東豊線	栄町	豊水すすきの	8.1	一								
S	1.26	首都高速交通管団	半蔵門線	半蔵門	三越前	4.4	一								
S	3.19	東京都	新宿線	篠崎	本八幡	2.8	一								
地	3.25	樽見鉄道	樽見線	神海	樽見	10.9	一								
1989年度（平成01年度）							1989年度（平成01年度）								
地	4.1	秋田内陸縦貫鉄道	秋田内陸線	比立内	松葉	29.0	一	地	4.1	紀州鉄道		西御坊	日高川	0.7	一
都	7.5	横浜新都市交通	金沢シーサイド線	新杉田	金沢八景	10.6	軌	地	4.30	JR北海道	標津線	標茶	根室標津・厚床	116.9	一
S	9.10	名古屋市	桜通線	中村区役所	今池	6.3	一	地	5.1	JR北海道	名寄本線	名寄	速軽・湧別	143.0	一
都	10.5	京阪電気鉄道	鴨東線	三条	出町柳	2.3	一	地	5.1	JR北海道	天北線	音威子府	南稚内	148.9	一
都	2.21	神戸新交通	六甲アラインド線	住吉	マリンパーク	3.5	一・軌	貨	5.1	北沢産業		網干	中浜田	5.2	一

開業								廃止							
種	月日	事業者	路線	起点	終点	距離	種別	種	月日	事業者	路線	起点	終点	距離	種別
都	3.10	JR 東日本	京葉線	東京	新木場	18.6	一	貨	8.1	JR 貨物	根室線	釧路	浜釧路	3.8	二
S	3.20	大阪市	鶴見緑地線	京橋	鶴見緑地	5.2	軌	地	12.23	JR 北海道	宮田線	勝野	筑前宮田	5.3	一
都	3.27	小田急電鉄	多摩線	小田急センター	唐木田	1.5	一								
都	3.30	京王帝都電鉄	相模原線	南大沢	橋本	4.4	一								
1990年度 (平成02年度)								1990年度 (平成02年度)							
地	4.1	JR 西日本	博多南線	博多	博多南	8.5	一	地	4.1	JR 西日本	鍛冶屋線	野村	鍛冶屋	13.2	一
都	4.4	相模鉄道	いずみ野線	いずみ野	いずみ中央	2.2	一	地	4.1	JR 西日本	大社線	出雲市	大社	7.5	一
都	6.1	大阪高速鉄道	阪モノレール線	千里中央	南茨木	6.6	軌	貨	4.1	JR 貨物	塩釜線	塩釜港	塩釜埠頭	1.9	一
地	8.2	埼玉新都市交通	伊奈線	羽貫	内宿	1.1	一	地	12.25	JR 北海道	石勝線	(新)夕張	(旧)夕張	0.8	一
S	11.28	京都府交通	京丸線	北山	北大路	1.2	一	地	1.1	下津井電鉄	下津井線	下津井	児島	6.3	一
S	11.28	京都府交通	半蔵門線	三越前	水天宮前	1.3	一								
地	12.20	JR 東日本	上越線	越後湯沢	ガーラ湯沢	1.8	一								
都	3.19	JR 東日本	成田線	成田線分岐点	成田空港	8.7	二								
都	3.19	成田空港高速鉄道	成田空港高速鉄道線	JR成田線分岐点	成田空港	2.1	三								
都	3.19	京成電鉄	本線	駒井野分岐点	成田空港	2.1	二								
都	3.19	成田空港高速鉄道	成田空港高速鉄道線	京成本線分岐点	成田空港	2.1	三								
地	3.25	桃花台新交通	桃花台線	小牧	桜花台東	7.4	軌								
都	3.31	北総開発鉄道	北総・公団線	京成高砂	新鎌ヶ谷	12.7	一								
1991年度 (平成03年度)								1991年度 (平成03年度)							
都	6.12	千葉都市モノレール	2号線	千葉	スポーツセンター	3.8	軌	貨	7.1	同和鉱業	片上鉄道線	片上	棚原	33.8	一
幹	6.20	JR 東日本	東北新幹線	上野	東京	3.6	一	路	3.20	新潟交通	新潟交通線	白山前	東関屋	2.6	一・軌
都	10.28	神戸電鉄	公園都市線	横山	フラワータウン	2.3	一								
S	11.29	京都府交通	南北線	駒込	赤羽岩淵	6.3	一								
地	12.1	東海交通事業	城北線	勝川	尾張星の宮	9.3	二								
S	12.10	東京都	12号線	練馬	光が丘	3.8	一								
地	3.26	阿佐海岸鉄道	阿佐東線	海部	甲浦	8.5	一								
1992年度 (平成04年度)								1992年度 (平成04年度)							
都	4.1	千葉急行電鉄	千葉急行線	千葉中央	大森台	4.2	一	路	4.1	函館市	東雲線	宝来町	松風町	1.6	軌
地	7.1	JR 北海道	千歳線	南千歳	新千歳空港	2.6	一	路	10.25	西日本鉄道	北九州線	砂津	黒崎駅前	12.7	軌
S	7.15	仙台市	南北線	八乙女	泉中央	1.2	一	貨	3.31	越後交通	長岡線	西長岡	越後関原	4.3	一
S	3.3	福岡市	空港線	博多	福岡空港	3.3	一								
S	3.4	大阪市	堺筋線	動物園前	天下茶屋	1.5	軌								
S	3.18	横浜市	3号線	新横浜	あざみ野	10.9	一								
地	3.18	東海交通事業	城北線	枇杷島	尾張星の宮	1.9	二								
1993年度 (平成05年度)								1993年度 (平成05年度)							
都	4.1	京浜急行電鉄	空港線	穴守稲荷	羽田	0.7	一	都	4.1	南海電気鉄道	天王寺支線	今池町	天王寺	1.2	一
S	8.12	名古屋市	鶴舞線	上小田井	庄内緑地公園	1.4	一	路	4.1	函館市	宮前線	ガス会社前	五稜郭公園前	1.6	軌
都	9.27	東京モノレール	東京モノレール羽田線	整備場	羽田空港	5.1	一	路	4.1	函館市	本線	函館駅前	山館駅前	2.0	一
S	3.30	名古屋市	桜通線	今池	野並	8.6	一	観	7.31	大阪観光	山下	山上	0.1	一	
								地	8.1	新潟交通	新潟交通線	月形	燕	11.9	一
								都	9.26	東京モノレール	鶴舞線	羽田整備場	羽田	1.2	一
								貨	1.20	京葉臨海鉄道	食品南線	千葉貨物ターミナル	食品北	1.2	一
								観	1.25	和歌山観光	食品北線	食品南	1.3	一	
												二の丸	0.1	一	
1994年度 (平成06年度)								1994年度 (平成06年度)							
都	6.15	JR 西日本	関西空港線	日根野	関西空港	11.1	一・二	地	4.1	野上電気鉄道	野上線	日方	登山口	11.4	一
			空港線	泉佐野	関西空港	8.8	一・二	地	5.16	JR 北海道	函館線	砂川	上砂川	7.3	一
			関西国際空港	りんくうタウン	関西空港	6.9	三	地	7.31	高松琴平電気鉄道	志度線	(現)瓦町	(新)瓦町	0.2	一
地	8.20	広島高速交通	広島新交通1号線	本通	広域公園前	18.4	一・軌								
都	9.30	大阪高速鉄道	大阪モノレール線	芝原	千里中央	3.5	軌								
S	10.14	札幌市	東豊線	豊水すすきの	福住	5.6	一								
地	12.3	智頭急行	智頭線	上郡	智頭	56.1	一								
都	12.7	西武鉄道	西武有楽町線	練馬	新桜台	1.4	一								
1995年度 (平成07年度)								1995年度 (平成07年度)							
都	4.1	大阪府都市開発	泉北高速鉄道線	和泉中央	光明池	2.2	一	貨	4.1	越後交通	長岡線	来迎寺	西長岡	7.6	一
都	4.1	千葉急行電鉄	千葉急行線	大森台	ちはら台	6.7	一	地	9.4	JR 北海道	深名線	深川	名寄	121.8	一
都	4.1	北総開発鉄道	北総・公団線	千葉ニュータウン中央	印西牧の原	4.7	二・三								

近年における鉄道路線の開業及び廃止の状況（大島・秋葉）

開業							廃止								
形態	月日	事業者	路線	起点	終点	距離	種別	形態	月日	事業者	路線	起点	終点	距離	種別
都	8.1	千葉都市モノレール	1号線	千葉みなと	千葉	1.5	軌								
都	11.1	東京臨海新交通	東京臨海新交通臨海線	新橋	有明	11.9	一・軌								
S	3.26	帝都高速度交通営団	南北線	四ッ谷	駒込	7.1	一								
都	3.28	神戸電鉄	公園都市線	フラワータウン	ウッディータウン中央	3.2	一								
都	3.30	東京臨海高速鉄道	臨海副都心線	新木場	東京テレポート	4.9	一								
1996年度（平成08年度）							1996年度（平成08年度）								
観	4.23	立山黒部貫光	無軌条電車線	室堂	大観峰	3.7	一	貨	10.1	JR 東日本	東海道線	品川	浜松町	3.7	一
都	4.27	東葉高速鉄道	東葉高速線	西船橋	東葉勝田台	16.2	一	都	3.8	JR 西日本	片町線	京橋	片町	0.5	一
地	7.18	JR 九州	宮崎空港線	田吉	宮崎空港	1.4	一								
S	12.11	大阪市	長堀鶴見緑地線	京橋	心齋橋	5.7	軌								
都	3.8	JR 西日本	JR 東西線	京橋	尼崎	12.5	二								
地	3.22	北越急行	ほくほく線	六日町	犀潟	59.5	一								
1997年度（平成09年度）							1997年度（平成09年度）								
都	4.1	大阪高速鉄道	大阪モノレール線	大阪空港	柴原	3.1	軌	地	4.1	JR 西日本	美祿線	南大嶺	大嶺	2.8	一
S	6.3	京都市	烏丸線	北山	国際会館	2.6	一	貨	4.1	JR 貨物	塩釜線	陸前山王	塩釜埠頭	4.9	一
都	8.22	大阪高速鉄道	大阪モノレール線	南茨木	門真市	7.9	軌	貨	10.1	東武鉄道	会沢線	葛生	上白石	0.8	一
S	8.29	大阪市	長堀鶴見緑地線	大正	心齋橋	2.8	軌	地	10.1	JR 北海道	室蘭線	東室蘭起点 70キロ(母恋)	室蘭	1.1	一
S	9.30	帝都高速度交通営団	南北線	四ッ谷	溜池山王	1.2	一	地	10.1	JR 東日本	信越線	横川	軽井沢	11.2	一
S	10.1	土佐くろしお鉄道	宿毛線	宿毛	中村	23.6	一	地	10.12	京阪電気鉄道	京津線	京阪三条	御陵	3.9	軌
幹	10.1	JR 東日本	北陸新幹線	高崎	長野	117.4	一								
S	10.12	京都市	東西線	醍醐	二条	12.7	一・二								
S	12.18	大阪港トランスポートシステム	南港・港区連絡線	南港	港コスモスクエア	2.4	一								
都	12.19	東京都	大江戸線	練馬	新宿	9.1	一								
1998年度（平成10年度）							1998年度（平成10年度）								
都	4.1	北九州高速鉄道	小倉線	小倉	平和通	0.4	軌	地	4.1	弘南鉄道	黒石線	川部	黒石	6.2	一
地	8.28	スカイレールサービス	広島短距離交通瀬野線	みどり口	みどり中央	1.3	軌								
都	10.1	大阪高速鉄道	彩都線	万博記念公園	阪大病院前	2.6	軌								
都	11.18	京浜急行電鉄	空港線	天空橋	羽田空港	3.2	一								
都	11.27	多摩都市モノレール	多摩都市モノレール線	立川北	上北台	5.4	軌								
地	1.11	井原鉄道	井原線	総社	神辺	41.7	一・二								
S	2.25	札幌市	東西線	琴似	宮の沢	2.8	一								
都	3.10	相模鉄道	いずみ野線	いずみ中央	湘南台	3.1	一								
都	3.24	千葉都市モノレール	1号線	千葉	県庁前	1.7	軌								
1999年度（平成11年度）							1999年度（平成11年度）								
S	8.29	横浜市	1号線	戸塚	湘南台	7.4	一	路	4.1	名古屋鉄道	美濃町線	関	美濃	6.0	軌
都	1.10	多摩都市モノレール	多摩都市モノレール線	立川北	多摩センター	10.6	一	地	4.5	新潟交通	新潟交通線	東関屋	月潟	21.6	一
都	1.19	名古屋市	4号線	大曾根	砂田橋	1.4	一	貨	9.10	釧路開発埠頭	西港線	新富士	西港	1.7	一
地	3.11	JR 東日本	仙石線	あおば通	仙台	0.5	一	地	10.4	蒲原鉄道	蒲原鉄道線	五泉	村松	4.2	一
								貨	11.1	JR 貨物	仙石線	石巻港	石巻埠頭	2.9	一
2000年度（平成12年度）							2000年度（平成12年度）								
S	4.20	東京都 東京都地下鉄建設	大江戸線	国立競技場	新宿	2.1	一 三 三	路	11.26	西日本鉄道	北九州線	熊西	折尾	4.4	軌
都	7.22	北総開発鉄道 都市基盤整備公団	北総線	印西牧の原	印旛日本医大	3.8	二 三	観	2.1	小田急電鉄	向ヶ丘遊園モノレール線	向ヶ丘遊園	向ヶ丘遊園正門	1.1	一
S	9.26	帝都高速度交通営団	南北線	目黒	溜池山王	5.7	一	貨	3.31	苫小牧港開発	苫小牧港開発株式会社線	新苫小牧	石油埠頭	10.2	一
S	12.12	東京都 東京都地下鉄建設	大江戸線	都庁前	国立競技場	25.7	一 三								

開業							廃止								
形態	月日	事業者	路線	起点	終点	距離	種別	形態	月日	事業者	路線	起点	終点	距離	種別
都	3.23	名古屋ガイドウェイバス	ガイドウェイバス志段味線	大曾根	小幡緑地	6.5	軌								
都	3.28	埼玉高速鉄道	埼玉高速鉄道線	赤羽岩淵	浦和美園	14.6	一								
都	3.31	東京臨海高速鉄道	りんかい線	東京テレポート	天王洲アイル	2.9	一								
2001年度 (平成13年度)							2001年度 (平成13年度)								
S	7.7	神戸市	海岸線	三宮	新長田	7.9	一	地	4.1	下北交通	大畑線	下北	大畑	18.0	一
観	7.27	舞浜リゾートライン	ディズニーリゾートライン	リゾートゲートウェイステーション	リゾートゲートウェイステーション	5.0	一	地	4.1	のと鉄道 JR西日本	七尾線	穴水	輪島	20.4	二三
								貨	10.1	福島臨海鉄道	小名浜埠頭本線	宮下	小名浜埠頭	1.2	一
								地	10.1	名古屋鉄道	揖斐線	黒野	本掛斐	5.6	一
											竹鼻線	江吉良	大須	6.7	
											八百津線	明智	八百津	7.3	
											谷汲線	黒野	谷汲	11.2	
2002年度 (平成14年度)							2002年度 (平成14年度)								
地	7.1	土佐くろしお鉄道	阿佐線	後免	奈半利	42.7	一	地	4.1	長野電鉄	河東線	信州中野	木島	12.9	一
地	10.27	芝山鉄道	芝山鉄道線	東成田	芝山千代田	2.2	一	都	5.26	南海電気鉄道 和歌山県	和歌山港線	和歌山港	水軒	2.6	二三
幹	12.1	JR東日本	東北新幹線	盛岡	八戸	96.6	一	地	8.1	南部縦貫鉄道		野辺地	七戸	20.9	一
都	12.1	東京臨海高速鉄道	りんかい線	天王洲アイル	大崎	4.4	一	貨	10.1	新潟臨海鉄道	太朗代線	黒山	太朗代	5.4	一
S	3.19	首都高速交通閉団	半蔵門線	水天宮前	押上	6.0	一	地	10.21	京福電気鉄道	永平寺線	東古市	永平寺	6.2	一
S	3.27	名古屋市	上飯田線 上飯田連絡線	上飯田	平安通	0.8	二三	地	1.1	有田鉄道	有田鉄道線	藤並	金屋口	5.6	一
2003年度 (平成15年度)							2003年度 (平成15年度)								
地	8.10	沖縄都市モノレール	沖縄都市モノレール線	那覇空港	首里	12.9	軌	観	9.18	ドリーム開発	ドリームランド線	大船	ドリームランド	5.3	一
S	12.13	名古屋市	名城線	砂田橋	名古屋大学	4.5	一	貨	12.1	JR貨物	東海道線	東灘(信)	神戸港	3.4	一
都	2.1	横浜高速鉄道	みなとみらい21線	横浜	元町・中華街	4.1	一	地	12.1	JR西日本	可部線	可部	三段峡	46.2	一
幹	3.13	JR九州	九州新幹線	新八代	鹿児島中央	137.6	一	都	1.31	東京急行電鉄	東横線	横浜	桜木町	2.0	一
2004年度 (平成16年度)							2004年度 (平成16年度)								
S	10.6	名古屋市	名城線	名古屋大学	新瑞橋	5.6	一	地	4.1	名古屋鉄道	三河線	猿投 碧南	西中金 吉良吉田	8.6 16.4	一
地	11.26	京都市	東西線	六地蔵	醍醐	2.4	一	観	3.25	二千五年日本国際博覧会協会		北ゲート	EXPOドーム	1.6	一
都	12.1	東京モノレール	東京モノレール羽田線	羽田空港第1ビル	羽田空港第2ビル	0.9	一								
都	1.29	名古屋鉄道	中部国際空港連絡鉄道	常滑	中部国際空港	4.2	二三								
S	2.3	福岡市	七隈線	橋本	天神南	12.0	一								
地	3.6	愛知高速交通	東部丘陵線	藤が丘	万博八草	8.9	軌								
観	3.25	二千五年日本国際博覧会協会		北ゲート	EXPOドーム	1.6	一								
2005年度 (平成17年度)							2005年度 (平成17年度)								
都	8.24	首都圏新都市交通	常磐新線	秋葉原	つくば	58.3	一	路	4.1	名古屋鉄道	揖斐線	忠節	黒野	12.7	一
都	2.2	神戸新交通	ポートランド線	市民広場	神戸空港	4.4	軌				岐阜市内線	岐阜駅前	忠節	3.7	
都	3.27	近畿日本鉄道	けいはんな線	生駒	学研奈良登美ヶ丘	8.6	二三				美濃町線	徹明町	関	18.8	軌
都	3.27	ゆりかもめ	東京臨海新交通臨海線	有明	豊洲	2.7	軌				田神線	田神	競輪場前	1.4	
								地	4.1	日立電鉄	日立電鉄線	常北太田	鮎川	18.1	一
								地	4.1	のと鉄道	能登線	穴水	蛸島	61.0	一
								観	8.31	屋島登山鉄道	鋼索線	屋島登山口	屋島山上	0.8	一
								観	9.1	伊豆箱根鉄道	駒ヶ岳鋼索線	駒ヶ岳登山口	駒ヶ岳山頂	0.7	一
2006年度 (平成18年度)							2006年度 (平成18年度)								
路	4.29	富山ライトレール	富山港線	富山駅北	奥田中学校前	1.1	軌	貨	4.1	JR貨物	大阪環状線	境川信号場	浪速	2.3	一
S	12.24	大阪市	今里筋線	井高野	今里	11.9	軌	貨	4.1	衣浦臨海鉄道	碧南線	碧南市	権現崎	3.1	一
地	3.18	仙台空港鉄道	仙台空港線	名取	仙台空港	7.1	一	貨	4.1	JR貨物	東海道線	梅小路	丹羽口	3.3	二
都	3.19	大阪高速鉄道	彩都線	阪大病院前	西都西	4.2	軌	地	4.21	北海道ちほく高原鉄道	ふるさと銀河線	池田	北見	140.0	一
								地	10.1	桃花台新交通	桃花台線	小牧	桃花台東	7.4	軌
								地	12.1	神岡鉄道	神岡線	猪谷	奥飛騨温泉口	19.9	一
2007年度 (平成19年度)							2007年度 (平成19年度)								
S	1.16	京都市	東西線	二条	太秦天神川	2.4	一	地	4.1	西日本鉄道	宮地岳線	西鉄新宮	津屋崎	9.9	一

近年における鉄道路線の開業及び廃止の状況（大島・秋葉）

開業							廃止								
形態	月日	事業者	路線	起点	終点	距離	種別	形態	月日	事業者	路線	起点	終点	距離	種別
S	3.30	横浜市	4号線	日吉	中山	13.0	一	地	4.1	くりはら田園鉄道	くりはら田園鉄道線	石越	細倉マインパーク前	25.7	一
都	3.30	東京都	日暮里・舎人ライナー	日暮里	見沼代親水公園	9.7	軌	地	4.1	鹿島鉄道	鹿島鉄道線	石岡	鉾田	27.2	一
								地	9.6	高千穂鉄道	高千穂線	延岡	槇峰	29.1	一
2008年度（平成20年度）							2008年度（平成20年度）								
S	6.14	東京地下鉄	副都心線	池袋	渋谷	8.9	一	地	4.1	三木鉄道	三木線	厄神	三木	6.6	一
都	10.19	京阪電気鉄道	中之島線	中之島	天満橋	3.0	二三	地	4.1	島原鉄道	島原鉄道線	島原外港	加津佐	35.3	一
都	3.20	阪神電気鉄道	阪神なんば線	西九条	大阪難波	3.8	二三	観	12.28	名古屋鉄道	モンキーパークモノール線	犬山遊園	動物園	1.2	一
			西大阪高速鉄道	西大阪延伸線				地	12.28	高千穂鉄道	高千穂線	槇峰	高千穂	20.9	一
								地	3.31	JR西日本	関西線	八尾	杉本町	11.3	一
2009年度（平成21年度）							2009年度（平成21年度）								
路	12.23	富山市	富山都心線	丸の内	西町	0.9	軌	貨	4.1	小坂精錬	小坂線	大館	小坂	22.3	一
		富山地方鉄道						地	11.1	北陸鉄道	石川線	鶴来	加賀一の宮	2.1	一
								貨	3.25	JR貨物	信越線	上沼垂(信)	沼垂	1.8	一
2010年度（平成22年度）							2010年度（平成22年度）								
都	7.17	京成電鉄	成田空港線	京成高砂	成田空港	51.4	二								
		成田空港鉄道	成田高速鉄道	印旛	成田高速鉄道	10.7	三								
		アクセス	アクセス線	日本医大	線接続点										
		成田空港	成田高速鉄道	空港	第2ビル	7.5	三								
		成田空港高速鉄道	高速鉄道線	アクセス接続点											
幹	12.4	JR東日本	東北新幹線	八戸	新青森	81.8	一								
幹	3.12	JR九州	九州新幹線	博多	新八代	151.3	一								
S	3.27	名古屋市	桜通線	野並	徳重	4.2	一								

出典：鉄道統計年報各年度・鉄道要覧各年度・分割民営に至る国鉄の歩み・日本鉄道旅行地図帳各巻

凡例 形態：幹－新幹線 都－大都市高速鉄道 S－大都市高速鉄道のうち地下鉄線 路－路面電車 地－地方旅客鉄道

観－観光鉄道 貨－貨物鉄道

種別：国－国有鉄道事業 地－地方鉄道事業 軌－軌道事業 一－第一種鉄道事業 二－第二種鉄道事業

三－第三種鉄道事業

距離：単位 km

付表2 近年における鉄道事業者の経営形態変更

種類	形態	年月日	変更後					種別	変更前	
			事業者	路線	起点	終点	距離		事業者	路線
1975年度 (昭和50年度)										
合併	観	10.29	六甲越有馬鉄道		摩耶ケーブル下	摩耶		地	←	摩耶鋼索鉄道
社名変更	観	10.29	六甲摩耶鉄道					地	←	六甲越有馬鉄道
1976年度 (昭和51年度)										
譲渡	観	8.23	和歌山観光		丹鶴	二の丸	0.1	地	←	近鉄観光
1978年度 (昭和53年度)										
社名変更	地	10.1	能勢電鉄					地	←	能勢電気軌道
1979年度 (昭和54年度)										
譲渡	地	4.1	筑波鉄道	筑波線	土浦	岩瀬	40.1	地	←	関東鉄道 筑波線
譲渡	地	4.1	鹿島鉄道	鉾田線	石岡	鉾田	27.2	地	←	関東鉄道 鉾田線
合併	貨	4.30	太平洋石炭販売輸送		城山	臨港	10.5	地	←	釧路臨港鉄道
1980年度 (昭和55年度)										
譲渡	路	12.1	阪堺電気軌道	阪堺線 上町線	恵比須町 天王寺駅前	浜寺駅前 住吉公園	14.1 4.6	軌	←	南海電気鉄道 阪堺線 上町線
1981年度 (昭和56年度)										
譲渡	都	5.1	東京モノレール	東京モノレール 羽田線	羽田	モノレール 浜松町	13.0	地	←	日立運輸東京 モノレール
社名変更	地	9.1	江ノ島電鉄					地	←	江ノ島鎌倉観光
1982年度 (昭和57年度)										
譲渡	観	4.1	ドリーム開発		大船	ドリームランド	5.3	地	←	ドリーム交通
1984年度 (昭和59年度)										
転換	地	4.1	三陸鉄道	北リアス線 南リアス線	田老 久慈 盛	宮古 譜代 吉浜	12.7 26.1 21.6	地	←	国鉄 宮古線 久慈線 盛線
転換	地	10.1	神岡鉄道	神岡線	猪谷	奥飛騨温泉口	19.9	地	←	国鉄 神岡線
転換	地	10.6	樽見鉄道	樽見線	大垣	神海	23.6	地	←	国鉄 樽見線
転換	地	11.1	弘南鉄道	黒石線	川部	弘南黒石	6.2	地	←	国鉄 黒石線
1985年度 (昭和60年度)										
転換	地	4.1	北条鉄道	北条線	粟生	北条町	13.7	地	←	国鉄 北条線
転換	地	4.1	三木鉄道	三木線	三木	厄神	6.6	地	←	国鉄 三木線
転換	地	7.1	下北交通	大畑線	下北	大畑	18.0	地	←	国鉄 大畑線
転換	地	10.1	由利高原鉄道	鳥海山ろく線	羽後本荘	羽後矢島	23.0	地	←	国鉄 矢島線
転換	地	11.16	明知鉄道	明知線	恵那	明智	25.1	地	←	国鉄 明知線
1986年度 (昭和61年度)										
転換	地	4.1	甘木鉄道	甘木線	基山	甘木	13.7	地	←	国鉄 甘木線
転換	地	4.1	南阿蘇鉄道	高森線	立野	高森	17.7	地	←	国鉄 高森線
譲渡	地	4.1	叡山電鉄	叡山本線 鞍馬線	出町柳 宝ヶ池	八瀬遊園 鞍馬	5.6 8.8	地	←	京福電気鉄道 叡山本線 鞍馬線
転換	地	7.1	阿武隈急行	阿武隈急行線	丸森	槻木	17.4	地	←	国鉄 丸森線
譲渡	地	10.1	新福島交通	飯坂線	福島	飯坂温泉	9.2	地	←	福島交通 飯坂線
転換	地	11.1	秋田内陸縦貫鉄道	秋田内陸線	角館 鷹ノ巣	松葉 比立内	19.1 46.0	地	←	国鉄 角館線 阿仁合線
転換	地	12.11	長良川鉄道	越美南線	美濃太田	北濃	72.1	地	←	国鉄 越美南線
社名変更	地	12.12	福島交通					地	←	新福島交通
転換	地	3.15	天竜浜名湖鉄道	天竜浜名湖線	掛川	新所原	67.7	地	←	国鉄 二俣線
転換	地	3.27	伊勢鉄道	伊勢線	河原田	津	22.3	地	←	国鉄 伊勢線
1987年度 (昭和62年度)										
転換	地	7.13	信楽高原鉄道	信楽線	貴生川	信楽	14.7	一	←	JR西日本 信楽線
転換	地	7.16	会津鉄道	会津線	西若松	会津高原	57.4	一	←	JR東日本 会津線
転換	地	7.25	錦川鉄道	錦川清流線	川西	錦町	32.7	一	←	JR西日本 岩日線
社名変更	観	8.1	四国ケーブル					一	←	八栗管蔵ケーブル
転換	地	10.14	若桜鉄道	若桜線	郡家	若桜	19.2	一	←	JR西日本 若桜線
転換	地	1.31	愛知環状鉄道	愛知環状鉄道線	岡崎	新豊田	19.5	一	←	JR東海 岡多線
転換	地	3.24	いすみ鉄道	いすみ線	大原	上総中野	26.8	一	←	JR東日本 木原線

近年における鉄道路線の開業及び廃止の状況（大島・秋葉）

		変更後						変更前		
種類	形態	年月日	事業者	路線	起点	終点	距離	種別	事業者	路線
転換	地	3.25	のと鉄道	能登線	のと穴水	蛸島	61.0	一 ←	JR西日本	能登線
1988年度（昭和63年度）										
転換	地	4.1	土佐くろしお鉄道	中村線	窪川	中村	43.0	一 ←	JR四国	中村線
転換	地	4.1	松浦鉄道	西九州線	有田	佐世保	93.8	一 ←	JR九州	松浦線
転換	地	4.11	真岡鐵道	真岡線	下館	茂木	41.9	一 ←	JR東日本	真岡線
転換	地	10.25	山形鐵道	フラワー長井線	赤湯	荒砥	30.5	一 ←	JR東日本	長井線
転換	地	3.29	わたらせ渓谷鐵道	わたらせ渓谷線	桐生	間藤	44.1	一 ←	JR東日本	足尾線
1989年度（平成01年度）										
転換	地	4.28	高千穂鐵道	高千穂線	延岡	高千穂	50.0	一 ←	JR九州	高千穂線
転換	地	6.4	北海道ちほく高原鐵道	ふるさと銀河線	北見	池田	140.0	一 ←	JR北海道	池北線
社名変更	地	8.1	北近畿タンゴ鐵道					一 ←	宮福鐵道	
譲渡	貨	9.30	小坂精錬	小坂線	大館	小坂	22.3	一 ←	同和鉱業	小坂線
転換	地	10.1	平成筑豊鐵道	伊田線 糸田線	直方 金田	田川伊田 田川後藤寺	16.1 6.8	一 ←	JR九州	伊田線 糸田線
転換	地	10.1	くま川鐵道	湯前線	人吉	湯前	26.3 24.8	一 ←	JR九州	田川線 湯前線
1990年度（平成02年度）										
転換	地	4.1	北近畿タンゴ鐵道	宮津線	西舞鶴	豊岡	83.6	一 ←	北近畿タンゴ鐵道	宮津線
1991年度（平成03年度）										
転換	観	4.27	嵯峨野観光鐵道 JR西日本	嵯峨野觀光線 山陰線	トロッコ嵯峨 (旧線区間)	トロッコ馬堀	7.3	二 ← 一 ←	JR西日本	山陰線
転換	地	9.1	のと鐵道 JR西日本	七尾線	七尾 和倉温泉	輪島 穴水	53.5 48.4	二 ← 三 ←	JR西日本	七尾線
1995年度（平成04年度）										
社名変更	地	4.1	くりはら田園鐵道					一 ←	栗原電鉄	
1997年度（平成05年度）										
譲渡	都	8.1	横浜高速鐵道	こどもの国線	長津田	こどもの国	3.4	三 ←	こどもの国協会	こどもの国線
転換	地	10.1	しなの鐵道	しなの鐵道線	軽井沢	篠ノ井	65.1	一 ←	JR東日本	信越線
1998年度（平成06年度）										
社名変更	都	4.1	ゆりかもめ					一軌 ←	東京臨海新交通	
社名変更	都	7.1	京王電鉄					一 ←	京王帝都電鉄	
譲渡	都	10.1	京成電鉄	千原線	千葉中央	ちはら台	10.9	一 ←	千葉急行電鉄	千葉急行線
1999年度（平成07年度）										
社名変更	都	10.1	都市基盤整備公団					三 ←	住宅・都市整備公団	
社名変更	都	10.1	筑波観光鐵道					一 ←	筑波山鋼索鐵道	
2000年度（平成08年度）										
譲渡	観	4.25	神戸市都市整備公社	摩耶ケーブル線	摩耶ケーブル下	摩耶	0.9	一 ←	六甲摩耶鐵道	摩耶ケーブル線
合併	地	10.1	大鉄技術サービス	大井川本線 井川線	金谷 千頭	千頭 井川	39.5 25.5	一 ←	大井川鐵道	大井川本線 井川線
社名変更	地	10.2	大井川鐵道					一 ←	大鉄技術サービス	
転換	路	11.26	筑豊電氣鐵道 西日本鐵道	北九州線	黒崎駅前	熊西	0.6	二 ← 三 ←	西日本鐵道	北九州線
2002年度（平成09年度）										
譲渡	地	4.1	万葉線	新湊港線 高岡軌道線	越ノ湯 六渡寺	六渡寺 高岡駅前	4.9 7.9	一 ← 軌 ←	加越能鐵道	新湊港線 高岡軌道線
転換	都	4.1	北神急行電鉄 神戸高速鐵道	北神線	新神戸	谷上	7.5	二 ← 三 ←	北神急行電鉄	北神線
転換	地	12.1	青い森鐵道 青森県 アイジーアール いわて銀河鐵道	青い森鐵道線	目時 盛岡	八戸 目時	25.9 82.0	二 ← 三 ← 一 ←	JR東日本	東北線
譲渡	地	2.1	えちぜん鐵道	勝山永平寺線 三国芦原線	福井 福井口	勝山 三国港	27.8 25.2	一 ←	京福電氣鐵道	越前本線 三国芦原線
転換	都	3.27	名古屋鐵道	小牧線 上飯田連絡線	味鋺	上飯田	2.3 2.3	二 ← 三 ←	名古屋鐵道	小牧線

種類	形態	年月日	変更後					種別	変更前	
			事業者	路線	起点	終点	距離		事業者	路線
2003年度 (平成10年度)										
譲渡	地	4.1	三岐鉄道	北勢線	西桑名	阿下喜	20.4	一 ←	近畿日本鉄道	北勢線
転換	地	3.13	肥薩おれんじ鉄道	肥薩おれんじ鉄道線	八代	川内	116.9	一 ←	JR九州	鹿児島線
2004年度 (平成11年度)										
社名変更	S	4.1	東京地下鉄					一 ←	帝都高速度交通営団	
譲渡	都	7.1	千葉ニュータウン鉄道	北総線	小室	印旛日本医大	12.5	三 ←	都市基盤整備公団	北総・公団線
社名変更	都	7.1	北総鉄道					二 ←	北総開発鉄道	
転換	都	10.6	名古屋臨海高速鉄道	西名古屋港線		金城ふ頭	15.2	一 ←	JR東海	東海道線
			JR貨物	名古屋臨海高速鉄道線	名古屋	名古屋貨物ターミナル	5.1	二 ←	JR貨物	(西名古屋港線)
2005年度 (平成12年度)										
転換	S	7.1	大阪市 大阪港トランスポートシステム	中央線	大阪港	コスモスクエア	2.4	二 三 ←	大阪港トランスポートシステム	南港・港区連絡線
転換	都	7.1	大阪市 大阪港トランスポートシステム	南港ポートタウン線	コスモスクエア	トレードセンター前	0.6	二 三 ←	大阪港トランスポートシステム	南港・港区連絡線
合併	観	10.1	立山黒部貫光	鋼索線	立山	美女平	1.3	一 ←	立山開発鉄道	鋼索線
分割	地	10.3	上田電鉄	別所線	上田	別所温泉	11.6	一 ←	上田交通	
2006年度 (平成13年度)										
譲渡	地	4.1	和歌山電鐵	貴志川線	和歌山	貴志	14.3	一 ←	南海電気鉄道	貴志川線
分割	地	4.3	一畑電車	北松江線	電鉄出雲市	松江しんじ湖温泉	33.9	一 ←	一畑電気鉄道	北松江線
				大社線	川跡	出雲大社前	8.3			大社線
転換	地	4.29	富山ライトレール	富山港線	奥田中学校前	岩瀬浜	6.5	一 ←	JR西日本	富山港線
2007年度 (平成14年度)										
転換	地	10.1	伊賀鉄道 近畿日本鉄道	伊賀線	伊賀上野	伊賀神戸	16.6	二 三 ←	近畿日本鉄道	伊賀線
転換	地	10.1	養老鉄道 近畿日本鉄道	養老線	桑名	揖斐	57.5	二 三 ←	近畿日本鉄道	養老線
譲渡	地	3.1	とうてつ	十和田観光電鉄線	十和田市	三沢	14.7	一 ←	十和田観光鉄道	十和田観光電鉄線
社名変更	地	3.1	十和田観光電鉄					一 ←	とうてつ	
転換	都	3.15	西日本旅客鉄道 大阪外環状鉄道	おおさか東線 大阪外環状鉄道	放出	久宝寺	9.2	二 三 ←	JR西日本	片町線
譲渡	S	3.31	東京都	12号線大江戸線	都庁前	新宿	27.8	一 ←	東京都地下鉄建設	12号線大江戸線
2008年度 (平成15年度)										
分割	地	4.1	ひたちなか海浜鉄道	湊線	勝田	阿字ヶ浦	14.3	一 ←	茨城交通	湊線
社名変更	地	8.1	流鉄					一 ←	総武流山電鉄	
2009年度 (平成16年度)										
譲渡	S	4.1	京都市	東西線	御陵	三条京阪	3.3	一 ←	京都市高速鉄道	東西線
転換	地	4.1	若狭鉄道	若桜線	群家	若狭	19.2	二 ←	若狭鉄道	若桜線
			八頭町		群家	若桜町若桜線接続点	16.5	三 ←		
			若桜町		八頭町若桜線接続点	若狭	2.7	三 ←		
転換	観	4.26	平成筑豊鉄道 北九州市	門司港レトロ観光線	九州鉄道記念館	関門海峡めかり	2.1	二 三 ←	日本貨物鉄道	鹿児島線
分割	都	9.16	相鉄準備会社	本線	横浜	海老名	24.6	一 ←	相模鉄道	本線
				厚木線	相模国分	厚木	2.2			厚木線
				いずみ野線	二俣川	湘南台	11.3			いずみ野線
社名変更	都	9.16	相模鉄道				一 ←	相鉄準備会社		
2010年度 (平成17年度)										
転換	地	12.4	青い森鉄道 青森県	青い森鉄道線	八戸	青森	96.0	二 三 ←	JR東日本	東北線

出典：鉄道統計年報各年度・鉄道要覧各年度・分割民営に至る国鉄の歩み・日本鉄道旅行地図帳各巻

凡例 形態：幹-新幹線 都-大都市高速鉄道 S-大都市高速鉄道のうち地下鉄線 路-路面電車 地-地方旅客鉄道 観-観光鉄道 貨-貨物鉄道

種別：国-国有鉄道事業 地-地方鉄道事業 軌-軌道事業 一-第一種鉄道事業 二-第二種鉄道事業

三-第三種鉄道事業

距離：単位km